

句集

# 風鈴

久保東海司

kubo tokaiji

風鈴の

短冊読める

程の風

昭和十六年頃から俳句を始めて優に七十余年、その作風はもはや芸の域にあるように感じられる。

作者が心でとらえた自然と生活が集中にあふれている。作者の心情が風鈴の音のように読者に伝わってくる。

高橋将夫「機」主宰



初詣  
いくさ  
なき世  
を合掌す

髪か  
たち替  
へて晴  
着を恵  
方道

僧立ちて燭継ぎ替ふる初大師

刻打たぬ時計のありて去年今年

検診の事なきを得て年迎ふ

鐘撞いてひびき掌にあり年迎ふ

宵  
戎  
ぬ  
く  
き  
日  
和  
も  
福  
の  
内

戒  
め  
の  
言  
葉  
の  
あ  
り  
て  
初  
曆

書  
初  
の  
硯  
に  
貫  
ふ  
神  
の  
水

羽  
子  
板  
の  
撞  
き  
痕  
の  
こ  
し  
世  
を  
去  
り  
ぬ

蛤の目覚め口より泡を吐く

巢つばめのとぶ決断のなき一羽



春一番波立つごとく葉を散らす

黒板は平仮名ばかり豆の花

強東風の果ての沖鳴り聴くばかり

沖鳴りのたかぶり海猫ごめの鳴き止まず

雨粒の光る芽吹きの枝垂梅

記紀に言ふ山々日毎芽ぐみをり

一刷きの雲置き去りの春の山

報恩に謝すべく参る彼岸寺

白魚の目のちりぢりに椀の中

式次第終りいよいよ卒業歌

深山にうぐひすの  
声澄みわたる

青空に風の白糸  
ひとにじみ

ところ得て夕蟬のまたひとしきり

葉桜の深夜をののく地震なりき

萬  
緑  
に  
入  
り  
て  
停  
ま  
ら  
ぬ  
繩  
電  
車

許  
さ  
る  
る  
丈  
ま  
で  
伸  
び  
よ  
今  
年  
竹



雨蛙小さく跳んで雲に乗り

前うしろと手間どりつける夏袴

黒鯛はねてまばゆき海の青さかな

草螢水に誘はれ低く輝る

記者室のをとこ臭さよ水中花

田水張り湖東忽ち包む水

身  
に  
合  
は  
ぬ  
父  
の  
遺  
品  
の  
白  
絢

廻  
廊  
の  
寺  
苑  
に  
牡  
丹  
百  
程  
に

金婚の父母に草笛吹き祝ふ

白牡丹四方より闇の来て包む

吟  
行  
の  
汗  
を  
ひ  
と  
薙  
ぎ  
滝  
の  
前

は  
ぐ  
れ  
た  
る  
ま  
ま  
人  
に  
躓  
く  
祭  
の  
夜

夕薄暑昔馴染の神輿かな

わくから葉や蝶の舞ふごとと奔流に

厩  
よ  
り  
揚  
羽  
追  
ひ  
出  
す  
調  
教  
師

夕  
虹  
を  
容  
れ  
て  
繩  
飛  
び  
百  
数  
ふ



質草に蚊帳あるむかし初ちちろ

石佛を石工が寝かす星月夜

縫ひあげてひねもす匂ふ菊枕

揺れ易きものには乗らぬ鬼やんま

一  
の  
字  
に  
た  
め  
す  
墨  
色  
柚  
子  
明  
り

霧  
ぶ  
す  
ま  
分  
け  
入  
る  
妻  
の  
男  
騎の  
り

木の実降るかごめかごめの輪の中に

雲水に熟柿二つを喜捨したる

煌々と流燈百が堰を落つ

おさげ髪梳きて花野へ数へ唄

壁  
占  
め  
て  
競  
ふ  
魚  
拓  
や  
鰯  
の  
秋

骨  
壺  
を  
抱  
き  
し  
こ  
と  
二  
度  
露  
の  
墓

輪を少し拡げ踊りをたやすく

樽漬の泡のつぶやき冬隣

冠雪の富士遠目にも美しや

雪よ降れ降れお浄土を埋めつくせ



翅  
た  
た  
み  
き  
れ  
ず  
歩  
め  
り  
枯  
蟻  
螂

リ  
ス  
ト  
ラ  
の  
如  
く  
大  
根  
引  
き  
抜  
か  
れ

首かはすスワンの夫婦冬の湖

萩枯れて古代静かに眠りをり

沖  
合  
の  
潮  
目  
輝  
く  
崖  
水  
仙

氷  
張  
る  
池  
の  
緋  
鯉  
を  
開  
ぢ  
込  
め  
て

浮かび出る親に鳩の子鳴き寄りて

雪晴れの夜につづきて星青し

連れあひと潜りくらべの鯨かな

山枯れてぞくぞく孵る星の数

湖の神見守る鴨の潜りつぐ

妻逝きて棺に寒菊埋め満たす

天涯に星の私語あり冬木立

柿の葉の枯れてからから風に鳴る

流人めく木枯の街古書探す

座に運ぶ粕汁湯気従へて



か  
ら  
み  
合  
ふ  
赤  
銅  
色  
の  
蓮  
の  
骨

鶏  
鳴  
に  
は  
な  
や  
ぐ  
小  
屋  
の  
寒  
卵

風  
鈴  
の  
短  
冊  
読  
め  
る  
程  
の  
風



著者略歴

久保東海司（くぼ・とうかいじ） 本名 賢一

昭和二年十一月二十九日生

昭和二十六年七月 朝日放送入社

昭和六十三年十一月 同右退社

平成三年七月 「槐」入会

平成五年七月 「槐」同人

平成二十二年七月 「槐安集」同人



句集  
風鈴ふうりん

発行 平成二十七年十一月二十九日

著者 久保東海司

発行者 大山基利

発行所 株式会社 文學の森

〒一六九〇〇七五

東京都新宿区高田馬場二丁目二 田島ビル八階

tel 03-5292-9188 fax 03-5292-9199

e-mail mori@bungak.com

ホームページ <http://www.bungak.com>

印刷・製本 小松義彦

©Tokaji Kubo 2015. Printed in Japan

ISBN978-4-86438-448-3 C0092

落丁・乱丁本はお取替りいたします。